

かさまつ

青少年育成町民会議だより

はじめてみませんか...



地域の

ふれあい



県町 三世代餅つき大会

当日は少々肌寒い日でしたが、県町「三世代餅つき大会」に赤ちゃんから年配の方まで一〇〇名にも及ぶ町内の皆さんが参加されました。
よもぎ・きなこ・ポテトチップス等でつくたてのお餅を食べながら、「何歳なの?」「幼稚園楽しい?」など、普段接する事のない幼児と話すおばあちゃん。

子どもたちの慣れない手つきに、「こうやって振り下ろすんだよ」などと優しく指導してくれた近所のおじさん。
また、初めて会う未就学児のお母さんと小学生を持つ親とも話が出来、子どもたちも一緒に遊び始めたりして、親どうしの親睦もはかれました。

自分たちでついたお餅も美味しく、何回もおかわりをしたらあつという間に無くなってしまうました。隣の人も知らない時代に、これだけ多くのご近所の幅広い年代の方々ともふれ合うことが出来る「三世代餅つき大会」をずっと続けられたらいいなあと願っています。

三世代ふれあい活動

地域活動部会

地域活動部会では、青少年の健全育成や地域の活性化を推進するために、町内育成員を中心に特色ある活動を通して、子どもからお年寄りまでがともに交流する三世代ふれあい活動を進めています。



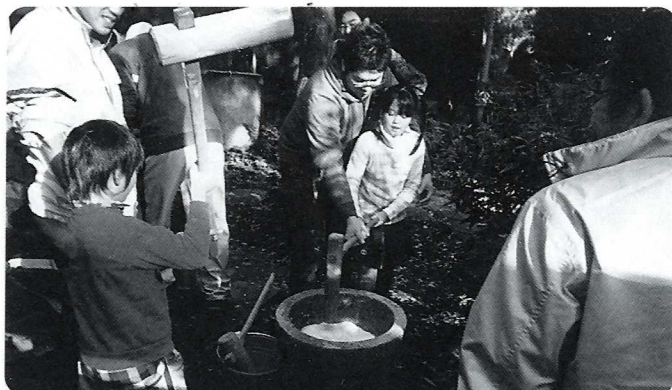
▲中新・如月町「三世代交流レクリエーション大会」



▲田代西「グラウンド・ゴルフ大会」



▲円城寺「芭蕉おどり」



▲宮川町「餅つき大会」

青少年の作文 テーマ「家庭・学校・地域」

町の審査結果で、下記のとおり選ばれました。おめでとうございます。(敬称略)

最優秀賞

優秀賞



笠松小1年
高木 真咲



松枝小5年
杉野 円花



笠松中3年
三田 明日香

- 松枝小 2年 中田 晴人
- 下羽栗小 1年 島田 明依
- 笠松小 6年 伊藤 麻耶
- 下羽栗小 5年 安田 翔音
- 笠松中 2年 名倉 瑞紀

第33回 少年の主張大会

中央公民館 H.23.6.26

青少年教育部会

(敬称略)

最優秀賞に選ばれた下記の2名の方は、県大会出場者選考委員会に推薦されました。おめでとうございます。



非行対策部会

街頭啓発活動

青少年によい環境を

7月3日(日) 非行・被害防止活動とし、「笠松駅」「トミダヤ(長池)」「ピアゴ(米野)」にてティッシュや生花を配りました。準備を岐阜工業高校の皆さんにご協力いただきました。



▲公民館前にて出発式



▲トミダヤ(長池)での啓発活動風景



▲笠松駅での啓発活動風景



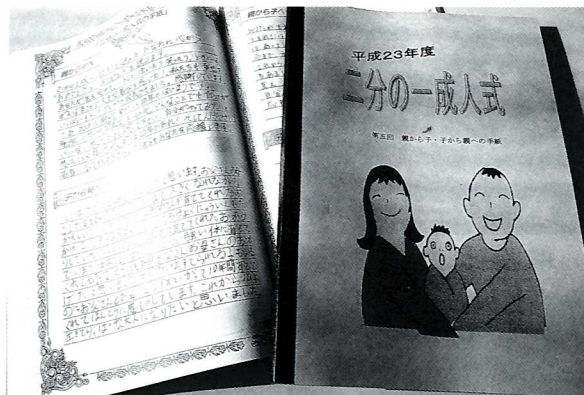
▲ピアゴ(米野)での啓発活動風景

家庭部会

二分の一成人式

～親から子へ・子から親への手紙～

家庭部会では、親子の絆を深め合う取り組みとして、今年も10歳を迎える児童とその親が互いに手紙を送りあう「二分の一成人式」を行いました。今年も心あたたまるメッセージが多く寄せられました。その一部を紹介します。



▲「二分の一成人式」の冊子

親から子へ

あなたが生まれたあの日から、もう10年が経つのですね。初めての子育てで、毎日あなたと一緒に泣いたり、笑ったり、10年後なんて、もっともっと、ずっとずっと先の事だと思っていました。

しかし、気がついたらもう4年生…。あっという間でしたね。小学校に入り、3姉妹の長女という事もあって自分のことは自力で、妹の面倒もみてくれたりと、お母さんは、とても助かっています。ありがとうございます。

これから、成長するにつれて、父母から離れて、1人での行動が多くなります。

あなたの考え方、行動に口うるさく言う事も増え、私たちの事をうっとおしく思う事もあると思います。でもあなたを困らせようとしているのではなく、心配しているいろいろな話をしてることをあなたの心の中に入れておいてくれるとうれしいです。

これからまた10年経ったら本当の成人式。その時、どんな女性になっているか楽しみです。 母より。

子から親へ

わたしは3姉妹の長女として、あまりしつかりしたことはいままであまりできていないけど、妹たちのめんどうは、できるだけ、やれるだけやりました。

でもときどきいけんがをしたりして、お母さんをこもらせてしまった時もあったけど、もう4年生、わたしは自分で全部やりとげます。

これからは料理、せんたくなどのこつたいもしたいと思えます。いままでありがとう。



これから10年。お母さんの思いとおりに育たないかもしれませんが、これからはしつかりした大人になれるようがんばります。お母さん、これからもよろしくおねがいします。

Thank You

青少年健全育成講演会を開催しました

テーマ『あなたにもできる児童虐待防止
～子どもたちに安心できる環境を～』

講師 社会福祉法人 児童養護施設 日本児童育成園 園長 長縄良樹 様

日時 平成23年11月28日(月)

42年間の経験から、児童養護施設の現状や子どもたちの様子を交えてお話いただきました。上から「教えてやる」のではなく、家族として「いっしょに考える」姿勢の大切さを教えていただきました。



編集後記

三・一一東日本大震災から一年が過ぎました。この月を迎えると今もなお自然災害の脅威と大切なものを失うことの悲しみを痛感します。

若者をはじめとした復興に立ち向かう人間力の強さには、心を熱くさせられます。震災から、世代をこえた人とのつながり、若者に将来を託す絆の強さとエネルギーを感じました。私達の町にも、多くの方々が、人との繋がりを大切にして活動してみえます。今回紹介する各町内での「三世代ふれあい活動」は、地域力の発展の源、「ふれあい」の原動力です。表紙で紹介する県町「餅つき大会」もそのひとつで「餅をつく」という行事に多くの方の「力」を必要とし、互いが力と心を合わせて掲げ上げ、同じものを「食」する。声掛けなどのお年寄りへの心遣いが、「思いやり」や「やさしさ」となって伝わり、ささえ合う気持ちが生まれて「絆」となっていくように思えます。今だからこそ、原点に戻り見つめ直して、素直な気持ちで優しく思いやりのある「家庭」、「町内」、そして「笠松町」になるよう、「つながり」を大切に各々の行事に取り組んでみましょう。(昌)